

1. 本授業科目の基本情報			
科目名(コード)	Webマーケティング基礎Ⅱ		(NKT13S)
講義名(コード)	Webマーケティング基礎ⅡF		(NKT13SF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	授業の目的・到達目標：現代のマーケティング理論と実務を総合的に理解し、観光業界に特化したマーケティング戦略を立案・実行する能力を養成すること
全体の内容と概要	1年間を通じて、価格設定、流通チャネル管理、PR、イベントマーケティング、CRM、サステナビリティなどの各種マーケティング要素の基礎について学習する
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内ワークへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	顧客関係管理（CRM）の基本	CRMの概念と観光業界での応用 グループワーク: CRM計画の立案
2	サステナビリティとエコツーリズム	サステナブルな観光マーケティングの考え方 グループワーク: エコツーリズムプロジェクトの策定
3	パートナーシップとステークホルダーマネジメント	パートナーシップの構築と管理 グループワーク: ステークホルダー分析と協力計画
4	コンテンツマーケティングの活用	効果的なコンテンツマーケティング戦略 グループワーク: 観光地のコンテンツマーケティング計画
5	モバイルマーケティングの最前線	スマートフォンの利用拡大に伴うマーケティング戦略 グループワーク: モバイルマーケティングキャンペーンの立案
6	メールマーケティングの有効活用	メールを使用した顧客とのコミュニケーション戦略 グループワーク: メールマーケティングキャンペーンの策定
7	グローバルマーケティングと文化の違い	国際観光市場の理解とアプローチ グループワーク: 異文化市場向けマーケティング戦略の策定
8	エクスペリエンスデザイン的重要性	観光体験を設計する方法 グループワーク: 体験型観光プロダクトの開発
9	ロイヤリティプログラムの活用	顧客ロイヤリティとリピーター獲得の戦略 グループワーク: ロイヤリティプログラムの企画
10	分析とデータ活用	マーケティングデータ分析の基本 グループワーク: データを用いたマーケティング戦略の改善提案
11	実際の観光プラン作成	グループごとに実際の観光プラン作成
12	実際の観光プラン作成	グループごとに実際の観光プラン作成
13	観光プラン発表	グループごとに作成した観光プランの発表と生徒間による質疑応答
14	テスト	テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザインⅡ		(NKT13Q)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅡF		(NKT13QF)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	江戸 真依子	時間数	30
成績評価教員	江戸 真依子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業人事関連職歴任、新人研修・社員研修業務を担当	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	・社会人として必要とされるマナーを習得する。・面接の流れを理解し、面接に向けての準備を整える。・志望する企業向けの履歴書を完成させる。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ (インターンシップ含む)
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる	【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンダラチャートの記入
2	学生時代に力を入れたことが書けるようになる	【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入
3	内的キャリアと外的キャリアが理解できるようになる	【講義】自分の内的・外的キャリアを考える方法について 【演習】自分の内的・外的キャリアについて記入
4	未来史が作成できるようになる	【講義】死ぬまでにしたいこと、3・5・10・20・30年後の設計 【演習】死ぬまでにしたいこと、未来史の記入
5	気になる業界について調査できるようになる	【講義】業界について、業界の種類、周辺の業界について 【演習】気になる業界や周辺の業界について記入し、発表（2分/人）
6	志望する企業を選択し、分析ができるようになる	【講義】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択【演習】志望する企業について、6つの視点で分析し、記入
7	競合他社について理解することができるようになる	【講義】志望する企業の競合を知り、調べる 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
8	志望する企業への志望動機が書けるようになる	【講義】志望動機の記入のポイント 【演習】志望動機の記入
9	履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる	【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出
10	履歴書を完成させることができるようになる	【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出
11	面接の基本が理解できるようになる	【講義】面接の基本、マナー 【演習】学生同士で練習/個別面談
12	面接のテクニックを習得できるようになる①	【講義】実際にあった面接の質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談
13	面接のテクニックを習得できるようになる②	【演習】質問例を活用し、学生同士で面接の練習/個別面談
14	後期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員は新人研修、社員研修業務経験を活かして講義を行い、職業人生、キャリアについて学生自らが主体的になって構想・実現していくことを指導する。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅡ		(NKT13M)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅡF		(NKT13MF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター (株)、東京精電 (株) 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	操作環境がない生徒がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、文字変換、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	1年生後半～2年生前期に資格試験対策 (MOS・日商PC検定) 中心の授業内容になりますが 資格取得の意欲のある生徒には、資格試験の練習もおこなっていきます

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作を覚える 合計・平均の計算ができる	Excelの基本 表の作成方法・計算式の入力（合計・平均）
2	関数（オートSUMボタン）の 操作ができる	オートSUMボタンの関数（SUM・AVERAGE・COUNT・MAX・MIN）学習
3	Excelで作成できるようになる	作成した表よりグラフ作成
4	RANK.EQ関数で順位づけができる	順位づけ（RANK.EQ関数） Fxボタンよりの関数の挿入・検索の仕方 相対参照と絶対参照のちがいと切り替え方法
5	ROUND・UP・DOWN関数で 端数処理の意味を理解できる	ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数のちがいと桁数の設定
6	条件判定と比較演算子の意味を 理解できる	IF関数① IF関数を使った条件判定の入力の仕方、比較演算子の意味と使い方
7	関数のネスト方法を理解できる	IF関数② 3つ以上の条件判定、関数のネストの入力方法
8	VLOOKUP関数を活用した 効率的な処理方法を理解できる	VLOOKUP関数① VLOOKUP関数の構造と使用方法
9	表検索入力の方法を理解できる	VLOOKUP関数② VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
10	並べ替えとフィルター データの検索と抽出を理解できる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出
11	復習（学習した機能を活用して 総合問題が解けるようになる）	テスト前練習問題（関数復習）
12	復習（学習した機能を活用して 総合問題が解けるようになる）	テスト前練習問題（データベース復習）
13	復習（学習した機能を活用して 総合問題が解けるようになる）	テスト前練習問題（総合問題）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスター Word&Excel2021
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	レベルに応じた資格試験の練習問題 担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスマナー II		(NKT14I)
講義名 (コード)	ビジネスマナー II F		(NKT14IF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネスにおける基本的なマナーを習得し、自分の意思をうまく伝え、円滑なコミュニケーションが取れることを目的とする
全体の内容と概要	さまざまな状況に応じたマナーを学び、実践に生かす
授業時間外の学修	アルバイト先などでの実践練習
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション/「社内のマナー」が理解できる①	【講義】後期で習得すること、話を聞くとき、指示を受けるとき 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
2	「社内のマナー」が理解できる②	【講義】注意を受けたとき、退社時のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
3	「社内のマナー」が理解できる③	【講義】葬儀のマナー、贈答のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
4	「社内のマナー」が理解できる④	【講義】食事のマナー、お酒の席のマナー、コラム（たばこのルールとマナー） 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
5	「社外のマナー」が理解できる①	【講義】名刺の扱い方、仕事に役立つ雑談 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
6	「社外のマナー」が理解できる②	【講義】場所ごとの席次、案内と見送り 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
7	「社外のマナー」が理解できる③	【講義】お茶の出し方と飲み方、訪問のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
8	「社外のマナー」が理解できる④	【講義】営業活動、派遣・出向 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
9	ビジネススキルの基本を理解できる①	【講義】敬語の使い方、話し言葉と書き言葉 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
10	ビジネススキルの基本を理解できる②	【講義】漢字の使い方、ビジネスメールの形式 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
11	ビジネススキルの基本を理解できる③	【講義】ビジネス文書の形式、はがきと封筒の使い方・書き方 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
12	ビジネススキルの基本を理解できる④	【講義】電話を受けるとき、電話をかけるとき 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
13	後期に学んで理解したことをアウトプットできる	社内のマナー、社外のマナー、ビジネススキルの基本から各自学んだことを他者にアウトプットする。
14	前期末テスト	【前期末試験】前期に習得した内容についての筆記試験
15	フィードバック、まとめ	【前期試験フィードバック】テスト結果をフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	JMAM 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
参考文献・資料等	
備考	適宜、理解を深めるためのパワーポイント資料を用意

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語Ⅱ	(NKT14C)
講義名 (コード)	ビジネス日本語ⅡF	(NKT14CF)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	宮下 裕衣	時間数 30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体的内容と概要	各課のN2レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい。
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「注意する・注意を受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
2	「頼む・断る」ことができる1	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
3	「頼む・断る」ことができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
4	「許可をもらう」ことができる1	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
5	「許可をもらう」ことができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
6	「アポイント」をとることができる1	6課との区別をしながら許可をもとめる場面の違いについて理解する
7	「アポイント」をとることができる2	面識がある人、面識がない人にアポイントをとる
8	「アポイント」をとることができる3	提案する表現を学習する、約束を変更する表現を学習する。ロールプレイ
9	他社や企業に「訪問する」ことができる1	受付で取次を頼む、名刺をうけとる、名刺の受け取り方を学ぶ
10	他社や企業に「訪問する」ことができる2	丁寧な言葉で、その場を退出する表現を学ぶ
11	今まで学習した表現を使って会話できる1	インターンシップ参加の仕方、メールの出しかた
12	今まで学習した表現を使って会話できる2	面接時の立ち振る舞い
13	第1回～第12回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ビジネス日本語30時間
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ホテルサービスⅡ		(NGH12N)
講義名 (コード)	ホテルサービスⅡA		(NGH12NA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ホテル・旅館の形態について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	おもてなしについて考えることができる。	サービス業におけるお辞儀の実践、 日本のおもてなしがなぜすごいと言われているのか考える。
2	宿泊する客さまの求めていることについて考えることができる。	人はなぜ旅行するのか？お客さまが求めているものは何か考える。
3	地域の観光状況について知ることができる	別所温泉での実習に向け事前学習
4	地域の観光問題について考えることができる	別所温泉での実習に向け事前学習
5	地域の観光問題について考えることができる	実習
6	地域の観光問題についてまとめることができる	まとめ
7	地域の観光問題についてまとめることができる	まとめ
8	ホテル・旅館の宿泊プランについて知ることができる。	ホテル・旅館にはどんな宿泊プランがあるか調べてみる。
9	宿泊プランを作成することができる。	どんな宿泊プランがあったら泊まりたいか考え、 グループでアイデアをまとめる。
10	ホテル・旅館の宿泊プランについて知ることができる。	どんな宿泊プランがあったら泊まりたいか考え、 グループでアイデアをまとめる。
11	宿泊プランを作成することができる。	グループでまとめたアイデアをもとに、宿泊プランを作成する。
12	宿泊プランを作成することができる。	グループでまとめたアイデアをもとに、宿泊プランを作成する。
13	作成した宿泊プランについて発表することができる。	期末テスト：作成した宿泊プランについて発表する。
14	作成した宿泊プランについて発表することができる。	期末テスト：作成した宿泊プランについて発表する。
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	新ホテル総論
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	レストランサービスⅡ		(NGH12L)
講義名 (コード)	レストランサービスⅡB		(NGH12LB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ホテル、レストラン業界で即戦力の人材の養成
全体の内容と概要	ホテル、レストラン業界の業務を実践形式を取り入れ、ビジネス目線でお客様集客を考える。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	ホテルのレストランでの予約の受け方を知り、お客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う。
2	席次について知ることができる。	お客さまのご案内を想定して、席次について学ぶ。
3	席次について知ることができる。	お客さまのご案内を想定して、席次について学ぶ。
4	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	トレイの持ち方、ウォーターサービスについて知り、実践する。
5	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	オーダーテイク、メモの取り方について知り、お客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う。
6	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	バッシング、お見送りの方法を知り、お客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う。
7	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	テーブルセット、受付、お出迎え～退店までの一連の流れを振り返る
8	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	受付、お出迎え～退店までの一連の流れを振り返り、グループでお客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う。
9	ホテルのレストラン業務について知ることができる。	受付、お出迎え～退店までの一連の流れを振り返り、グループでお客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う。
10	和室での作法について知ることができる。	和室での作法を知り、注意しなければいけない点を確認する。
11	和室での作法について知ることができる。	和室での作法を知り、注意しなければいけない点を確認する。
12	和室での作法について学んだことを実践できる。	勤労者福祉センターで実践
13	まとめと解説	期末試験
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	フィードバックとまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	レストランサービススタンダードマニュアル、動画サイトで関連映像使用
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化理解Ⅱ		(NKT13K)
講義名 (コード)	異文化理解ⅡA		(NKT13KA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	桑名美帆	時間数	30
成績評価教員	桑名美帆	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グローバル化が進む社会の中で、グローバルな環境で働く際に必要となる異文化理解力を深め、国際人としてふさわしい人材になる事を目指す。人前で国の発表を繰り返し行う事でプレゼンテーションスキルが身につく。
全体の内容と概要	世界の国の文化や歴史を学び、自国のものと比べ違いを理解する。グループワーク、ディスカッション、発表などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持つ。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	文化理解 ていてイの子科の子百目標を提示し、異文化を理解することの必要は、異文化理解 てきていない場合どんなところが異なるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦とはということについて学習していく。 グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化 対応力について自分を数値的に理解する。
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションが とりやすくなる方法を知る	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、 パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。
4	様々な国の文化を理解することが できる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための 準備をする
5	様々な国の文化を理解することが できる	催事についての発表
6	様々な国の生活についてわかる ようになる	様々な国の人々の生活をヒアロてみる。(家、街中の様子、仕事、子供の 様子、休日の過ごし方など) 各自興味がある国について調べてまとめる。
7	様々な国の生活についてわかる ようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。
8	様々な国の生活についてわかる ようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
9	世界の衣食住の歴史について知 ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、 自分の国と比べてみる
10	世界の衣食住の歴史について知 ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
11	世界の衣食住の歴史について知 ることができる	衣食住発表準備
12	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
13	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
14	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	「異文化理解入門」、その他
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策Ⅱ		(NKT130)
講義名 (コード)	検定対策ⅡF		(NKT130F)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどで繰り返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容	
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める	
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存	
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定	
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更	
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	模擬試験 問題1 ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ	
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	模擬試験 問題2 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内	
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	模擬試験 問題3 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて	
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 (FOM出版問題集使用) 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム 模擬1 配置の設定・文字書式の変更, 設定・定型文の入力・段落番号の設定・保存 表の配置設定・図形の装飾	
9		模擬試験プログラム 模擬2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定	
10			模擬試験プログラム 模擬3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存・インデント設定 表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力
11		模擬試験プログラム 模擬3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存・インデント設定 表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力	
12			
13			
14	まとめと解説	期末テスト	
15	まとめと解説	テストF B	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成 (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	宿泊業務Ⅱ		(NGH12P)
講義名 (コード)	宿泊業務ⅡA		(NGH12PA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	株式会社ヤドロク	時間数	30
成績評価教員	株式会社ヤドロク	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ホテル・旅館の形態について知り、即戦力の人材を育てる。
全体的内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ホテル・旅館にはどのような業務があるか知ることができる。	ホテル、旅館にはどのような部署があるかを知る
2	ホテル・旅館のフロント業務について知ることができる。	ホテル・旅館のフロント業務①
3	ホテル・旅館のフロント業務について知ることができる。	ホテル・旅館のフロント業務②
4	ホテル・旅館のフロント業務について知ることができる。	ホテル・旅館のフロント業務③
5	ホテル・旅館のベル・案内業務について知ることができる。	ホテル・旅館のベル・案内業務①
6	ホテル・旅館のベル・案内業務について知ることができる。	ホテル・旅館のベル・案内業務②
7	ホテル・旅館の客室業務について知ることができる。	ホテル・旅館の客室業務
8	ホテル・旅館の予約業務について知ることができる。	ホテル旅館の予約業務①
9	ホテル・旅館の予約業務について知ることができる。	ホテル旅館の予約業務②
10	ホテル・旅館の予約業務について知ることができる。	ホテル旅館の予約業務③
11	宿泊業界全体について知ることができる。	日本の宿泊業界の今まで、現在、これから
12	宿泊業界全体について知ることができる。	日本の宿泊業界の今まで、現在、これから
13	まとめと解説	後期のまとめ
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	新ホテル総論
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	地域観光産業 I		(NGH12U)
講義名 (コード)	地域観光産業 I A		(NGH12UA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本文化や日本の観光を学び、自分自身の職業選択や人生を邁進できる知識を身につける
全体の内容と概要	日本と長野県を中心に地域の産業の共通点や相違について習得する
授業時間外の学修	授業内で発表準備が間に合わない時はホームワーク
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリング出来る程度の日本語学力が必須

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率60%以上で期末試験受験者を対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介ができる	自己紹介と祖国の伝統工芸を伝える
2	着物を知る	日本伝統衣装の「きもの」を理解をして、上田紬を学ぶ
3	着物の作り方を知る	高価な着物。なぜ高価か、作る工程を工程を見る
4	上田紬を知る	【出前授業】藤本塩田店の岩下オーナーから上田紬の歴史を知る
5	藤本塩田店で機織り体験をする	【フィールドリサーチ】藤本塩田店へ行き上田紬を織る
6	フィールドリサーチまとめ	藤本塩田店で体験したことで印象に残ったことを発表する
7	着物ビジネスを考える①	外国人目線で日本の伝統衣装のビジネスを前向きに考える
8	着物ビジネスを考える②	チームを作り、着物ビジネスと考え、発表する
9	日本人のしきたりを知る	日本人のしきたりを知る
10	お正月のしきたりを知る	正月のしきたりに内容を絞って、楽しい日本の正月を過ごせるようにする
11	日本人のコミュニケーションを知る	日本人のコミュニケーションのモノサシはどこにあるか知る
12	日本人の履き物のこだわり	日本人が履いている履き物の歴史を知る
13	テスト勉強ができる	期末テストに向けてテスト勉強をする
14	期末テスト	テスト実施
15	テスト内容フィードバック	テスト内容、半年の授業の振り返りのフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	BIOTOPE
参考文献・資料等	日本のしきたり入門、長野県お大正解、着物関連の教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本観光地理 II		(NGH12T)
講義名 (コード)	日本観光地理 II A		(NGH12TA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	日本の観光地などを案内するために必要な日本の地理・観光地についての基礎知識を身につける。日本の観光地について自ら調べて簡単な案内ができるようになる。
全体の内容と概要	日本全体の地理及び都道府県についての概要を知り、主な観光地について学ぶ。
授業時間外の学修	日本の観光地について理解を深めるとともに、自国の観光地の良さを再発見する。
履修上の注意事項等	聞くだけの一方通行の授業でなく、自ら考えて答えを導き出す力を養う。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	前期に学習した内容を復習し、定着をはかる
2	長野県について知る	長野県の地域別概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
3	中部地方の県について知る (1)	中部地方各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
4	中部地方の県について知る (2)	中部地方各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
5	近畿地方の府県について知る (1)	近畿地方各府県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
6	近畿地方の府県について知る (2)	近畿地方各府県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
7	中国・四国地方の県について知る (1)	中国・四国地方各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
8	中国・四国地方の県について知る (2)	中国・四国地方各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
9	九州地方の県について知る (1)	九州地方各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
10	九州地方の県について知る (2)	九州地方各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
11	地図の見方を覚える	地形図を見て地図記号や方位・縮尺・標高などを学ぶ
12	鉄道時刻表の見方を覚える	J Rや私鉄など鉄道時刻表の見方を習う
13	観光ツアーを考える	サンプルを用意し、ツアーの企画を立ててみる
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	期末テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	るるぶ 都道府県大百科
参考文献・資料等	都度、プリントや資料を配布
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅡ		(NKT14E)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅡA		(NKT14EA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネスで使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。又日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体的内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものとは比べる1 聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものとは比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	JLPT形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	JLPT形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	×の前夜で死に、言い換えている言葉を見つけることができる。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅱ		(NKT14G)
講義名 (コード)	日本語資格対策ⅡA		(NKT14GA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、コミュニケーション力を高めるおとができる
全体的内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる1	文法（～か、にもほどがある、ならまだしも、以前）、語彙（漢字読み第7, 8, 9, 10回）
2	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる2	文法（～べくして、が だけに）、チェック、語彙（文脈規定第1, 2, 7, 8回）
3	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる3	文法（～といわず といわず、たら たで、にたえない、ようものなら）、語彙（文脈規定第9, 10, 言い換え類義第7, 8回）
4	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる4	文法（～ならいざしらず、ないものか、に越したことはない）、チェック、語彙（文脈規定第11, 12回、言い換え類義第9, 10回）
5	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる5	文法（～とはいえ、といったところだ、に ない、にかこつけて）、チェック、まとめ問題
6	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる1	文法（～ところを、の至り、をもって、こととて、に堪えません）、語彙（文脈規定第13, 14回、用法第1回）
7	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる2	文法（～たる、限りです）、チェック、まとめ問題、語彙（文脈規定第15, 16回、用法第2回）
8	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる1	文法（～じゃあるまいし、んばかり、たらそれまでだ、ものを）、語彙（用法第3, 4回）
9	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる2	文法（～ときたら、たところで、おうが、ろうが まいが）、語彙（用法第5, 6回）
10	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる3	文法（～なら で、にすれば、までのことだ）、チェック、語彙（用法第7, 8回）
11	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる1	文法（～といったらない、ろうにも ない、まくって）、語彙（用法第9, 10回）
12	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる2	文法（～にしたところで、てみせます）、チェック、まとめ問題、語彙（N1語彙総合問題）
13	小説などを読んで登場人物やその関係を理解することができる	文法（～つ つ、ともなく、べく、てからというもの）語彙（N1総合問題）
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY! 日本語能力試験N1, ドリル&ドリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	旅行業務Ⅱ		(NGH12R)
講義名 (コード)	旅行業務ⅡA		(NGH12RA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	授業の目標：旅行業務の基礎を理解する 到達目標：実際の旅行プランを作成・発表できる
全体の内容と概要	日本の観光地を深掘りし、グループワークにて実際の旅行プランを作成・発表する
授業時間外の学修	TV・映画・ネット・SNSを通じ日本の観光・世界の観光はどんな特徴があるのか？を学修する
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要 外出することもあるかと思うので交通安全・学校への事前許可等が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	顧客サービスとコミュニケーションスキル	効果的な顧客サービスとコミュニケーションの技術を習得す
2	トラブル対応とクライシスマネジメン	旅行中に発生する可能性のある問題に対処するための基本的なスキルを身につける
3	旅行プランの作成方法（応用）	実際のケーススタディを用いて、応用レベルの旅行プランを作成する
4	観光資源の管理と持続可能性	観光資源の持続可能な管理の重要性を学び、実践的な知識を身に付ける
5	ツアーガイドの役割とスキル	ツアーガイドとしての役割と必要なスキルセットを学ぶ
6	イベント企画と管理	イベントの企画と実施に関する基本的な知識とスキルを習得する
7	マーケティングとプロモーション戦略	旅行商品のマーケティング戦略とプロモーション手法を学ぶ
8	旅行業界の最新トレンド	旅行業界の最新動向とそれに対する適応方法を理解する
9	エコツーリズムと文化観光	環境に配慮した観光と文化を重視した観光の重要性を学ぶ
10	ビザとパスポートの手続き	国際旅行におけるビザとパスポートの手続きに関する知識を深める
11	旅行プランの作成	グループごとに2泊3日程度の旅行プランを実際に作成
12	旅行プランの発表	作成した旅行プランをグループごとに発表 作成した旅行プランに対し生徒間での質疑応答
13	総復習とテストに向けて	テストに向け学生からの質疑応答等
14	テスト	テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	パワーポイント等による資料提供
参考文献・資料等	地図でよくわかる都道府県大百科 各種旅行業・観光系雑誌
備考	ビジュアルエイドを多用し、学生同士のグループワークを中心に授業を展開する